

2023.7
福田美術館

報道関係者各位

生誕140年 竹久夢二のすべて 画家は詩人でデザイナー



本展は2024年に生誕140年、没後90年を迎える画家、竹久夢二の回顧展です。

「夢二式美人」と呼ばれ、一世を風靡した美人画の数々に加え、小説の挿絵、楽譜の表紙デザイン、本の装丁や俳句・作詞にいたるまで、多彩な才能を発揮したクリエイターとしての夢二の魅力が詰まった作品の数々をご覧ください。関西では、コレクションがまとまって公開されるのは約30年ぶり。夢二ファンはもちろん、老若男女を問わずお楽しみいただける展覧会です。

会期：2023年7月14日（金）～10月9日（月・祝）

前期：7月14日（金）～8月28日（月）／後期：8月30日（水）～10月9日（月・祝）＊以降全国巡回を予定

【主催】 福田美術館、MBSテレビ、京都新聞

【企画制作】 MBSテレビ

【展示内容】 日本画、油彩画、水彩画、楽譜表紙絵、本の挿絵、版画など約200点

竹久夢二（たけひさ ゆめじ）1884～1934

大正ロマンを代表する画家・詩人。1884年、岡山県に生まれる。1901年に上京し、苦学しながら早稲田実業学校へ通うも、雑誌『中学世界』への投稿作品が入選したのを機に中退。荒畑寒村と親交があり、平民社の機関紙『直言』に挿絵を描く一方、島村抱月のもとで『東京日日新聞』にコマ絵を描いた。のちに『夢二画集 春の巻』を出版後、画集や詩画集を続々と刊行し人気を博す。また1918年以降、作詞を手がけた「宵待草」が流行した。生涯をかけて数多くの美人画を残しており、その題材ともなった恋愛遍歴についても、多く評伝される。

福田美術館が所有する国内有数の夢二コレクション約200点を一挙公開

本展は、京都・嵐山にある福田美術館の貴重なコレクションから、2024年に生誕140年、没後90年を迎える画家、竹久夢二の作品を紹介するものです。福田美術館が所蔵する竹久夢二の作品は、彼と直接の親交があった故・河村幸次郎氏（下関市立美術館名誉館長）が収集した「旧河村コレクション」と呼ばれるもので、334点の数を誇ります。



《女十題 北方の冬》1921年



《青春譜》1930年



《切支丹波天連渡来之図》1914年

マルチクリエイターとして活躍した夢二の魅力を堪能

誰もが一度は目にしたであろう、長身ではかなげな印象を持つ「夢二式美人」の数々に加え、珍しい油絵や風景画、数々のデザイン画や小説の挿絵など、その内容は多岐に渡ります。本展では、夢二の人生を語る上で鍵となる《青春譜》や《旅》、連作《長崎十二景》や《女十題》などの名作から、中山晋平楽譜やセノオ楽譜の表紙原画、夢二の文才が発揮された小説や俳句にいたるまで、クリエイター夢二のすべてをご紹介します。



《糸まき》制作年不詳

＜第1章＞ 夢二式美人の魅力

だらりの帯に大人びた表情を浮かべる舞妓、物憂げな芸妓に野良着の少女…夢二が描くさまざまな年齢や職業の女性は、共通してどこか奥ゆかしく儚げな印象が魅力的です。第1章ではそんな夢二式美人たちに、切ない恋心を抱いてみてください。



《木によれる女》
1915年頃

＜第2章＞ 憧れと現実 ～絵で辿る夢二の人生

岡山県に生まれた夢二は、東京を拠点に多彩な才能を開花させました。榛名山に美術研究所の設立を夢見ながらも、志半ばで結核を患い49歳の若さで逝去しています。数々の恋愛遍歴の中には最愛の恋人との死別もあり、決して順風満帆とは言えませんが、儚くもドラマティックな人生と言えるでしょう。第2章は恋人に宛てた手紙や夢二の憧れの地・長崎ゆかりの代表作《長崎十二景》などと共に、彼の生涯を追います。



《寝顔》制作年不詳



《長崎十二景 化粧台》1920年頃



《旅》1931年

＜第3章＞ 小説も書ける挿絵画家



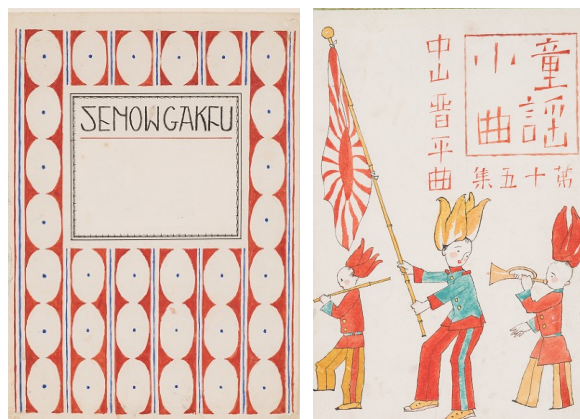
《姉妹》1926年頃

文才に恵まれていた夢二は、詩や俳句に加え、小説も手掛けていました。雑誌の短編小説や、新聞の連載小説を執筆し、多くの挿絵を残しています。夢二が描き下ろした小説挿絵の原画の数々を、物語の一節とともにご覧ください。

＜第4章＞ 夢二と音楽

夢二は音楽への造詣が深く、楽譜の表紙を数多くデザインしました。ここでは「中山晋平作曲全集」と「セノオ楽譜」を、貴重な表紙原画とともに展示いたします。絵とレタリングで、曲の特徴を鮮やかに表現するセンスにご注目ください。

右：《中山晋平曲「童謡小曲」第十五集 原画》1930年
左：《セノオ楽譜表紙原画（No.333、460）》1924年頃



＜第5章＞ デザイナー夢二～「カワイイ」の元祖



《初春》1926年

大正3年（1914）、夢二は自らデザインした日用雑貨を販売する「港屋絵草紙店」を立ち上げます。若い女性客を中心に、連日店は賑わいました。本章では少女雑誌の表紙原画、千代紙、封筒や便箋、装幀本などを展示。現代の私たちも心ときめく夢二の「カワイイ」デザインを、余すところなくご紹介いたします。

＜第6章＞ 夢二のまなざし

独学で絵の道に進んだ夢二にとって、作画の基本となったスケッチ。風景や人物のありのままの姿が、確かな目と技術で写し取られています。夢二は何を見て、インスピレーションを受けたのでしょうか。豊かな創作意欲の源泉となったスケッチの数々を公開いたします。夢二のアトリエの壁にも貼られていたかもしれない、無数のスケッチをそっと覗いてみませんか。



左上：《玉乗り》1911年頃
左下：《帽子》制作年不詳
右：《娘の顔》制作年不詳

展覧会概要

- 企画展名 「生誕140年 竹久夢二のすべて 画家は詩人でデザイナー」
- 会 期 2023年7月14日（金）～10月9日（月・祝）
 <前期>7月14日（金）～8月28日（月）
 <後期>8月30日（水）～10月9日（月・祝）＊以降、全国巡回を予定
- 開館時間 10:00～17:00（最終入館 16:30）
- 休 館 8月29日（火）展示替え
- 主 催 福田美術館、MBSテレビ、京都新聞
- アクセス 〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16
 JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩12分
 阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩11分
 嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩4分

■ 料 金

一般・大学生	高校生	小・中学生	その他
1,500（1,400）円	900（800）円	500（400）円	＊障がい者と介添人1名まで各900（800）円 ＊幼児無料 ＊（ ）内は20名以上の団体料金

<嵯峨嵐山文華館両館共通券>

一般・大学生：2,300円／高校生：1,300円／小中学生：750円／障がい者と介添人1名まで：各1,300円

プレスリリース／広報用画像／ご取材に関するお問合せ

「福田美術館」広報事務局（共同ピーアール内）

担当：田中、樋口

TEL：03-6264-2045 Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

■ 福田美術館について

TEL：075-863-0606（代表） Email：info@fukuda-art-museum.jp

プレス用画像

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/yumeji/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



①《木によれる女》1915年頃



②《長崎十二景 化粧台》1920年頃



③《旅》1931年



④《長崎十二景 青い酒》1920年頃



⑥《爪切り》1919年頃



⑤《女十題 北方の冬》1921年



⑦《青春譜》1930年

プレス用画像

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/yumeji/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



⑧《姉妹》1926年頃



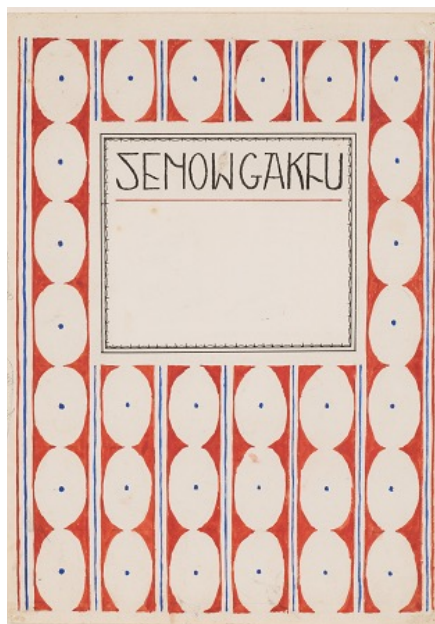
⑨《おびえる》制作年不詳



⑩《初春》1926年



⑪《中山晋平曲「童謡小曲」第十五集 原画》1930年



⑫《セノオ楽譜表紙原画 (No.333、460) 》1924年頃



⑬《糸まき》制作年不詳



⑭《娘の顔》制作年不詳



⑮《帽子》制作年不詳



⑯《玉乗り》1911年頃

福田美術館について

美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。福田美術館は「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。

オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという想いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然とともに日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。



嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。

